

第7回あづみのパークコミュニティ会議概要

- 1 日 時 平成30年2月27日(火) 午前10時00分から正午まで
- 2 会 場 国営アルプスあづみの公園管理センター2階会議室
- 3 出席者 あづみ野穂高温泉旅館組合 組合長 辻谷 洋一
安曇野ペンション協議会 理事長 薄井 満介
国土交通省関東地方整備局 長野国道事務所 副所長 大里 弘人、公園課長 篠遠 富恵
安曇野市観光協会 副会長、(株)ほりで一ゆ〜 代表取締役 太田 謙
安曇野市商工会穂高支所 支所長 平川 博章
安曇野案内人倶楽部 代表 等々力 秀和
国営アルプスあづみの公園管理センター 管理センター長 緒方 京一、企画広報課長 内田 利幸
堀金地域 岩原区 代表区長 浅野 長彦
岩原の自然と文化を守り育てる会 事務局長 南 健児
安曇野建設事務所 所長 飯森 正敏、維持管理課長 長澤 徹、維持管理担当係長 宮澤 俊吉
長野県都市・まちづくり課緑化信州フェア推進室 主査 丸山 武倫
安曇野市 農林部 耕地林務課 耕地林務課長補佐 佐藤 明利
商工観光部 観光交流促進課 拠点維持整備係長 小川 昇
教育部 文化課 主事 丸山 知裕
都市建設部 部長 横山 正、都市計画課 課長 久保田 薫
課長補佐 大月 力三、主査 御子柴 昌善
- 4 会議概要 作成年月日 平成30年3月6日

協議事項等

- I. 会議の概要
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 自己紹介
 - 4 会議事項
 - (1) 国営アルプスあづみの公園からの情報提供
 - (2) 県営烏川溪谷緑地からの情報提供
 - (3) その他情報提供・提案
 - (4) 意見交換
 - (5) 役員改選
 - (6) その他
 - 6 閉会
- II. 議事の概要
 - 1 開会
薄井副会長
 - 2 あいさつ

辻谷組合長

皆さんこんにちは。本日は第7回目のパークコミュニティ会議ということになります。来年、平成31年度には全国都市緑化信州フェアも控えていますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

大里長野国道事務所副所長

皆さんこんにちは。長野国道事務所の大里と申します。おかげさまで今年度現在までの入園者は昨年並みになり、皆様の協力・ご指導のおかげであり、お礼申し上げます。公園の利用にあたっては、安全と安心、衛生面含めたものの確保が必要であり、その上で入園者数を増やすことが必要になります。その為にも、4月1日からは1年間料金改定の試行を行い、子どもの料金を80円から無料にし、若干大人の利用料金は上がりますが、2日間の通し券も発行します。これによりツインパークとして、1日ずつ堀金・穂高と大町・松川を利用してもらうようにアピールして、多くの入園者に来てもらいたいと思います。また、入園者の数を増やすだけでなく、公園のポテンシャルである、「文化、食、歴史」等を伝えながら、多くの入園者に来てもらいたいと思います。もう一つは、地元の方も含めて、253haの公園に来て、使ってもらい、利用し尽くすことも必要です。また、昨年6月に都市公園法が一部改正になり、PFI（地方公共団体が行ってきた社会資本整備運営を民間主体に移管する）が改正されました。民間が売店を公園内に outlet してもよいということを可能にするものの法的裏付けができましたので、収益事業が成り立つかは別として、期間・場所を区切り公園を使ってもらおうことが、これからはどこの公園でも必要になってくるのではないのでしょうか。

私達、国道事務所も管理センター等の限られた所としか付き合いがないなかで、これからはどこに話をもっていけばよいか安曇野市さんを含めて始めて行きたい。収益プラス占有的なことも含めて、期間・場所を限定して公園を利用してもらい、また、都市緑化フェアの一つの大きなインパクトにもしないといけないので、皆さんと協力して入園者数を増やし、地域を活性化する役割を果たしてしていきたいと思います。

飯森安曇野建設事務所長

皆さんこんにちは。安曇野建設事務所所長の飯森でございます。皆様方には日頃から県の建設行政、特に我々安曇野建設事務所に多大なるご理解ご協力を賜りありがとうございます。さて、都市緑化フェアが約1年後に迫り、国営アルプス公園堀金・穂高地区と烏川溪谷緑地がサブ会場になっており、入園者を万全な状態で迎えられるように打ち合わせをしながら取り組みたいと思います。一例を申し上げますと、公園の入口である豊科大天井岳4車線には森林税を活用して植樹を行い、南安曇農業高等学校には花を植えてもらう予定であります。

話は変わりますが、こんなデータがあります。松本空港活性化の調査で空港利用者の行先のアンケートによると、松本地域では、「お城、安曇野（ワサビ）、上高地、平湯、白骨温泉、乗鞍」とのことであり、更に、これを外国人のみに限ると、「安曇野（ワサビ）、白骨温泉、乗鞍」が抜け落ちてしまうとのこと。もう一つ、旅行会社のアンケートによる長野県が旅行先に選択されない理由として、交通アクセスが悪い、自然被害の観光素材が乏しい、情報発信が悪い、ということが挙げられていました。泊まりたくなる施設を増やす方法としては、交通アクセスの充実と施設の改修、飲食の改善が挙げられていました。

さきほど、大里副所長もおっしゃっていましたが、県全体として文化・歴史・食の観点が芳しくないということではないのでしょうか。本日は、このような切り口が、安曇野に宿泊・滞在できる仕掛けづくりのヒントになるのではないかと思います。紹介させてもらいました。この会議を通じて、地域と情報共有を図り、

公園をより利用してもらうことが地域振興の一助になると考えておりますので、本日はどうかよろしくお願ひします。

横山安曇野市都市建設部長

皆さんこんにちは。都市建設部長の横山正でございます。日頃、安曇野市政運営にご理解とご協力をいただいていることに対しましてこの場を借りて御礼を申し上げます。本日は第7回目のパークコミュニティ会議ということでお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

さて、さきほどよりご紹介ありますように、平成31年度に都市緑化フェアがあり、国営公園堀金・穂高地区と烏川溪谷緑地はサブ会場ということであります。本市としましても三郷文化公園をサテライト会場としたり、安曇野インターを降りたり、駅を降りた後からサブ会場へうまく誘導を図れるような仕掛けを市民の皆様と一緒に計画していますので、ここにいる皆様からもご助言いただければと思っております。

この会議も年2回開催されて、今回で第7回目となり、来年は一大イベントが開催されるということで、本日お集まりの皆様、それぞれ公園を管理する立場の方からすると公園の利用促進、宿泊業を営まれている方からするとこの機会に多くの誘客をする、地域の方からすると日々の活動を知ってもらい安曇野のリピーターを増やしてもらう格好の機会です。

そこでこの会議の目的にもありますように、情報を共有するなかで、それぞれ知恵と意見を出し合っ、本当に良かったと思われるようなフェアにしたいと思ひます。今日のところはフェアの前段の説明になると思ひますが、年度が変わって5月か6月にはフェア実行委員会が開催され更に詳細が決まりますので、その時はまたこの会議でそれを皆様にお示しできると思ひますので、フェアに向けて皆様で連携・対応して取り組んでいけたらと思ひます。

3 自己紹介

会長から座席の反時計回りで自己紹介。配布資料の確認。

4 会議事項

(1) 国営アルプスあづみの公園からの情報提供

ア 国営公園からの情報提供（長野国道事務所 篠遠公園課長）

1 ページについて、これまでの国営アルプスあづみの公園の年度別の利用状況は、平成28年度は43万6千人であり、平成29年度の入園者数は2月12日現在で約42万人であり、前年度比若干1.1%の減です。

平成29年度の月別利用状況については、春先4月・5月は過去最高を記録しましたが、夏場7月中旬から8月中旬は天候不順、10月は週末の台風21・22号による天候不順、広報PRを行ったり、NHKの定点カメラを設置したイルミネーションの入園者が県内に様々な施設ができていることもあり低迷し、やや減少しました。

2 ページについて、ゴールデンウィークの利用状況については、前回説明させていただきましたので、お盆期間中の利用状況の推移についてですが、さきほども申しましたように天候不順があり、特に大町・松川地区は気温が低かったこともあり、過去最高だった平成28年度を下回りましたが、全体では過去3番目に多い入園者数でした。

3 ページについて、イルミネーション利用の状況ですが、さきほども申しましたように、平成22年度は14万人ほどの入園者だったのが、ここ数年はピーク時の半分程度です。また、1日あたりの入園者数もピーク時の半分程度であり、これは県内の他の地域に様々な施設ができている影響と思われま。インターネットのランキングでは堀金・穂高地区が1位のことありますが、実際のところは、

軽井沢に同時期に施設ができたため、入園者数は横ばい状態です。イルミネーションの球数についても、堀金・穂高地区で40万球、大町・松川地区で30万球とかなり増えていますが、他の場所でも同じように増えていることもあると思います。

アルプスあづみのセンチュリーライドについては、今年で10周年であり、昨年の11月10日に松本市のMウイングにて記念フォーラムを開催しました。今年度についても既に募集は定員に達しており、桜のセンチュリーライドが4月21・22日に1,540人が参加して開催され、5月20にはみどりのセンチュリーライドが堀金・穂高地区スタートの80km、120kmのコースで2,140人が参加して開催されました。

4ページの累計入園者数については、平成16年7月に開園して以来、今年度10月5日に両地区で500万人を達成した。その時の写真を載せました。

5ページについて、日本とチェコ共和国の民交流に取り組む「スメタナ・リトミシュル会」が、国交回復60周年を機に、堀金・穂高地区を視察しました。

6ページについて、平成30年度から国営公園の更なる利用者数増加を目指した試行として、子どもは無料、大人は若干40円だが増額、20名以上が対象の団体料金の適用、各公園だけでの使用だった年間パスポートを全ての国営公園で使用可能にする、新たに2日間通し券の設定を試行します。

7ページについて、沖縄を除いた青マルの国営公園11か所において、入園料の改定に関する試行を行う予定です。

8ページについて、国営公園の入園者数の推移ですが、平成28年度は約4,000万人、平成32年度は目標で2割増しの4,800万人としています。試行料金一覧表で、2日間通し券においても大人は500円が350円となり、団体料金の適用があります。

9ページ以降について、平成29年6月15日に都市公園法が改正され、本省のHPに載っている公募設置管理制度（P-PFI）創設の資料の抜粋になります。人口減少社会の到来・高齢化社会の深刻化、都市公園の整備費の減少、公園管理における整備から維持管理への力点の推移という社会情勢の変化に対応するため、公園緑地行政は、緑とオープンスペースの量の整備を急ぐステージから、緑とオープンスペースが持つ多機能性を、都市・地域・市民のために最大限引き出すことを重視するステージに移行するべきとあります。

10ページについて、新たなステージで重視すべき観点として、①ストック効果をより高める。「公園管理者も資産運用を考える時代」②民間との連携を加速する。③公園のポテンシャルを柔軟な発想で引き出すとあります。

Park-PFIの創設は、新たなステージでの都市公園の再生、活性化を推進するために今回改正された都市公園法の一つです。

11ページについて、公園のストック増加、施設の老朽化が発生→財政制約から公園整備・更新への投資もある程度限界がある→民間の資金活用を一層推進することが必要→民間活力による新たな都市公園の整備手法を創設し、公園の再生・活性化を推進する。このためにPPFI（公募設置管理制度）が創設された。特徴は、都市公園にて飲食・売店等の施設（公募対象公園施設）の設置・管理を行う民間事業者を公募により選定する手続き。事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特例措置（①設置管理許可期間10年→20年、②建蔽率2%→12%、③占有物件の特例）がインセンティブとして適用されます。

12ページについて、PPFIのメリットとしては、公園管理者は財政負担の軽減、公園サービスレベル

の向上、民間事業者は長期的視野での投資・経営が可能となる、収益向上にも繋がる質の高い空間を創出できる、公園利用者はサービスが充実する、公園の利便性、快適性、安全性が高まるといことがあります。

13ページについて、事例1は大阪の天王寺公園において、エリアの再整備、管理運営を事業者の負担により行う者を公募し、平成27年度から20年間の契約で公園の管理運営を実施しています。

事例3は横浜市の山下公園において、市が整備したレストハウスへ管理許可に基づき出店する者を公募し、平成19年7月より管理運営を実施しています。

14ページについて、民間事業者へのサウンディング（アイデア募集）事例として、北九州市と横浜市が載っています。都市部の公園では出店すると収益に繋がるものがありますが、地方の公園では場所・土地の問題もありなかなか難しいと思いますので、部分的にでもうまく公園の一部の施設を使うなどして管理する、例えば大町・松川地区で施設の屋根の下などを使用する方法があるのではないのでしょうか。また、何かアイデアがありましたらご教示願いたいと思います。

また、PPFIの支援制度として、社会資本整備総合交付金の「官民連携型賑わい拠点創出事業」が創設されました。

本日の資料は国のHPからの抜粋資料になりますので、詳細についてはHPをご確認ください。

イ 公園イベント等について（国営アルプスあづみの公園管理センター 内田企画広報課長）

平成30年度 国営アルプスあづみの公園の運営維持管理計画ということで、公園周辺の地域住民、及び観光で訪れるお客に安全・快適に国営公園を満喫してもらうため、北アルプスを背景にした大自然に囲まれた国営公園のポテンシャル、さらに安曇野地域の魅力を最大限に活用した域連携事業やイベント展開を図っています。

事業実施計画では、季節ごとのイベントを春から年間を通じて行っています。具体的には、別のチラシをご覧ください。

地域連携事業も、年間を通じて行っていますが、特に都市緑化フェアが迫って来ますので、管理センターとしても広報等に役に立ちたいと考えています。

早春賦音楽祭、安曇野センチュリーライドは都市緑化フェアのプレイベントとして開催します。

観光誘客についても、観光協会や地域の事業者の方と一緒に関東・関西・中京圏への誘客活動を管理センターとしても取り組みたいと思います。

また、公園のポテンシャルを最大限に生かすために、安曇野の自然と文化を考える会、安曇野クラフトゲート匠の杜、南安曇農業高校、安曇野オオルリシジミ保護対策会議、安曇野環境市民ネットワークや自治会の方々と一緒に、公園の中で地域の文化の伝承・環境保全についても継続的に実施したいと考えています。

具体的なイベント事業についてですが、スプリングフェスタは春のチューリップの開花やナノハナの開花時期に合わせイベント展開します。

夏のアルプス大冒険ですが、ウォーターアドベンチャーと題し、北アルプス山麓の水を活用し、公園内の段々に広がる湖面に設置した水上アスレチックやニジマスのつかみ取り体験等を実施します。

お盆期間中の特別イベントですが、国営公園における新たな「風物詩」創出を目指し、帰省中の方や観光客需要を喚起できるように、3年目となる「サマーイルミネーション」を実施します。

秋のコスモスの花フェスタについては、宿泊キャンプ体験やロープ渡り体験等やツーリングの全国大会を中心に実施します。

ウィンターイルミネーションについては、約70万球を飾りつけ、クリスマスムードを盛り上げるコンサートやイベント等も行います。近隣の幼稚園児等にはイルミネーション点灯式に参加協力してもらっています。平成29年度には、安曇野市の協力を得、スワンガーデン隣接地にイルミネーションを掲げました。今後もより一層の地域連携を推進します。

冬イベントについては、屋内施設のインドアガーデンがあり、開花時期を早くしたアイスチューリップ1万球を室内に展示します。

都市緑化フェアに向けては、サブ会場の「国営アルプスあづみの公園」と「烏川溪谷緑地」と連携しながら、1年前イベントとして公園で実施するイベントや花修景を「緑化フェア」バージョンとして、積極的に協力・参画していきます。

早春賦音楽祭についても、1年前イベントとして開催します。

アルプスあづみのセンチュリーライドについては、平成29年度は「桜のAACR」「緑のAACR」の2回実施しました。来年度は堀金・穂高地区スタートのコースを新設し、より一層地域連携事業として自治体、民間事業者、観光施設等の皆様と盛り上げ、特に宿泊需要を喚起したいと思います。

県営烏川溪谷緑地の連携については、ノルディックウォーキングを行い、国営公園の無料日には門扉を開放し相互で往来できるようにしています。

地元との連携については、「岩原の自然と文化を守り育てる会」「塚原誕生200年地域づくり振興会」の皆様と公園入口等でマルシェを行ったりして一緒に活動しています。

観光誘客事業については、長野県、安曇野市観光協会、安曇野穂高温泉旅館組合、ペンション協議会等国営公園を含めた安曇野地域全体に誘客するために、観光事業者の皆様と連携を図りながら、関東・中京・関西圏等の旅行事業者向けの営業活動を行っています。

農家民泊事業については、安曇野市、大町市、松川村で農家民宿連絡協議会を立ち上げてもらい、管理センターで事務局をしています。宿泊だけでなく、日帰りについても事業の準備を行っています。

安曇野の地域文化伝承や自然資源活用の取り組みについては、「あづみの学校」において、古民家で安曇野の風習を再現した「節分・豆まき」イベントを行っています。また、園内の絶滅危惧種の「オオルリシジミ」の保護対策会議や南安曇農業高校等と連携して貴重な生き物やそれを育む環境を保全・創出しています。

公園の魅力を深める「花修景」については、北アルプスを背景とした広大な敷地を活用した花修景が公園の魅力を深めるコンテンツとしてお客様に好評を得ています。今後も公園財団のノウハウを生かして、取り組んでいきたいと思っています。

資料の最後のページには、季節ごとの花修景が載っています。春はチューリップ・ナノハナ、夏はヒマワリ・ケイトウ・リナリア、秋はキバナコスモス・コスモスとなっています。地域を代表する景色となるように取り組みたいと思います。また、ナノハナについては、棚田で見せるナノハナというのが珍しく、周辺地域や観光雑誌へPRしたり、昭和記念公園のある立川駅にポスターの掲示を依頼できました。関東・中京・関西圏等へPRしていくにあたり、引き続き皆様にもこの写真を使って協力依頼したいと考えています。

(2) 県営烏川溪谷緑地からの情報提供

ア 建設事務所からの情報提供（安曇野建設事務所 宮澤維持管理担当係長）

横長の資料についてですが、烏川溪谷緑地の工事概要図になります。開かれてから15年近く経過して、施設が少しずつ傷んできていますので、平成26年度に長寿命化計画を立てて、少しずつ施設を更新・修繕してきています。本日は今まで行ってきたもの及び今後行う予定のものを説明します。

まず、森林エリアになります。主なものを紹介します。

ビューホテルから入った場所の木道ですが、経年劣化により腐食が激しかったので、昨年度と今年度にかけて耐久性の高いものに更新しました。

近年、ユキトギ沢の水量が増えて崩壊が進みつつあるので、護岸整備を実施しました。

来年度以降としては、ユキトギ沢の上流でも傷みが出てきているので、溪流保全工を行い、駐車場の未舗装箇所も舗装を行う予定です。

次に水辺エリアになります。

環境管理事務所の近くのつり橋塗装と防護柵等の更新を平成28年度までに実施しました。

今年度は、代表的な箇所になりますが、傷みが進行しているベンチ・テーブル及び防護柵等を更新したので、訪れた方も気持ちよく利用してもらえんと思います。それから、下流の方になりますが、3つほどある木道のうち清流橋付近の木道を更新しました。

来年度以降としては、長寿命計画だけでなく全国都市緑化フェアに向けても対応するように計画しており、園路の舗装更新や木道更新を行い、狭いと言われている左岸側の駐車場の整備や園路整備を行う予定です。

少しずつではありますが、施設を直しつつ、利用者の方に気持ちよく帰ってもらうように、予算の都合もありますが、可能な限り対応していきたいと思います。皆様も広報等で烏川溪谷緑地について、ご紹介いただければと思います。

次のページですが、烏川溪谷緑地の来園者数の推移になっています。平成14年に完成してから、累計462,700人となっています。年度別では、平成27年が42,900人で突出していますが、これは、旅行会社が行ったミステリーツアーに烏川溪谷緑地が入っていたことによります。今年度は1月31現在で37,700人ですが、平成28年度に比べてイベント等を充実させたため増加しています。全体的には徐々に増えている傾向であり、自然を生かし、かつ国営公園の近くにある公園ということで、お互いに連携していけば、地域の活性化に繋がっていくと思います。

次のページですが、国営公園の入口の豊科大天井岳線について、南安曇農業高等学校の環境クリエイト科で「自分たちでつくろうプロジェクト」というものが平成29年度建設系学科高校生における就労促進事業に選ばれて、県と一緒にやっているものになります。新聞等でも記事になっていますが、現場で測量・インターロッキングブロック施工実習を行い、ポケットパーク（石庭）制作の計画を体験することで建設産業のやりがいを実感するものになります。実施については、これからになります。このように、高校生の力も借りて、美化を進めています。

また、入口だけでなく、所々に植栽スペースが空いておりまして、先ほど所長の話にもありましたが、森林税を用いて高木を植樹していく予定です。剪定についても、安曇野市さんが地元で講習会の開催を予定しているとのこと。また、数は限られますが、フラワーポットの制作を南農さんに依頼しまして、全国都市緑化フェアに向けて、入口を綺麗にして利用者を迎えることを考えています。

イ 公園イベント等について（安曇野建設事務所 宮澤維持管理担当係長）

平成29年度の烏川溪谷緑地の行催事計画及び実施状況についてですが、からすの学校については今年度に第100回を迎えまして、リピーターの方もおり、募集人数は少ないですが、今後も継続して行っていききたいと思います。あと、主なイベントは市民会議主催及び地域連携事業でのノルディックウォークになり、年間25回前後を行っています。また、他の地域連携事業として、宿泊施設タイアップでオオルリ観察会がありました但し申込みはありませんでした。安曇野市の環境フェアに出させてもらいました。宿泊施設タイアップでスノーシューハイクもありました。

平成30年度の烏川溪谷緑地の行催事計画についてですが、今年度と同程度計画しており、からすの学校は回数が以前より増えてきています。また、4月に情報提供させてもらいたいと思います。宿泊施設からは、移動手段、いわゆる足が問題になると聞いているので、工夫しながら取り組んでいきたいと思っています。

(3) その他情報提供・提案

ア 里山再生計画の具体的取組「さとぶろ。」の説明。

詳細は別紙資料へ。

(安曇野市耕地林務課 佐藤補佐)

イ 安曇野市内の平成29年度イベント開催スケジュール等の説明。

詳細は別紙資料へ。

(安曇野市観光交流促進課 小川係長)

ウ 平成31年度全国都市緑化信州フェア基本計画についての概要説明

詳細は別紙資料へ。

(フェア推進室 丸山主査)

エ 事務局からの提案事項

全国都市緑化信州フェア安曇野市スタンプラリー企画書の説明。

詳細は別紙資料へ。

(安曇野市都市計画課 大月補佐)

オ 構成団体からの情報提供

岩原城と戦国時代の堀金についての説明。

詳細は別紙資料へ。

(岩原の自然と文化を守り育てる会 事務局長 南 健児)

安曇野屋敷林フォーラム2018、映画よみがえる安曇野についての説明。

詳細は別紙資料へ。

(安曇野案内人倶楽部 代表 等々力 秀和)

(4) 意見交換

・事務局提案ー全国都市緑化信州フェア安曇野市スタンプラリー 原案について了承

今後、官庁・民間との交渉を進め、内容面を詰めていく。

・国営公園へのアクセス道路である大天井岳線の県道敷きに三角地が残っているが、希少種であるヒメシロチョウがいるので、食層を残して他の雑草は刈ることとする。

・猿害についてー昨年12月以降は特に動きなし。この時の回答で問題が新たに生じたら協議していく。

(5) 役員改選について

・会長及び副会長の任期が3年だが、引き続き現在の辻谷会長と薄井副会長にお願いする。

(6) その他 次回は、緑化フェア実行委員会後の6月頃に開催予定としたい。(事務局)

5 閉会

薄井副会長により閉会